



# アマミノクロウサギとは？

## プロフィール

学名	Pentalagus furness
生息地	奄美大島・徳之島
頭胴長	42～51cm
体重	1.3～2.7kg
特徴	夜行性、耳・脚が短い、 巣穴をつくる
鳴き声	ピューイー
食べ物	シイの実、植物の葉・茎、木の皮など
天敵	マングース、ノイヌ・ノネコ
指定	特別天然記念物 絶滅危惧ⅠB類



写真:常田守

## ■ 豊かな自然のシンボル

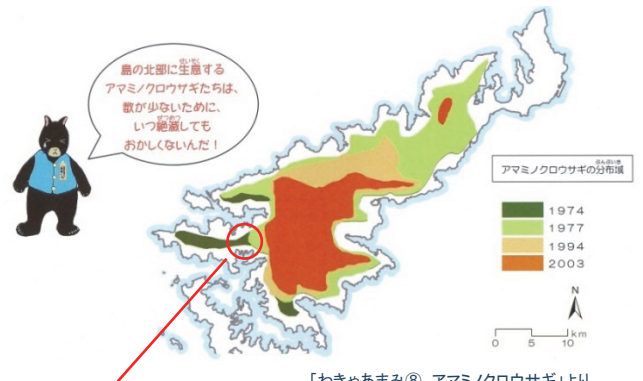
ウサギなのに長い耳もなく、ウサギ跳びもしない。真っ黒なその姿は、一般的なウサギと比べとてもユニークです。世界で奄美大島と徳之島だけに生息し、独自の生態を保ち、奇跡的に残っている生き物です。ウサギの中でも最も原始的な形態を残していることから「生きた化石」とも呼ばれています。シイやカシ等の常緑広葉樹の原生林にすむ、豊かな自然のシンボルです。

## ■ 原告 アマミノクロウサギ

1995年、島でのゴルフ場開発に対して、アマミノクロウサギなどの動物を原告とした日本初の裁判が起こされました。この訴えの根底には、「人間は自然に生かされている」という奄美の人々の自然観があり、裁判に注目が集まることで、多くの人が「利用する対象」として捉えてきた自然を「人間にとってなくてはならないもの」と認識するきっかけとなりました。

## ■ 「非常事態宣言」発令

現在、アマミノクロウサギは、奄美大島に3,000頭、徳之島には200頭前後が生息していると推定されています。道路やゴルフ場等の開発が生息環境を破壊しています。また人間がハブ退治のために入れたマングースがその生存を脅かしています。10年間の調査で304頭の死亡個体が確認されており、2009年に「アマミノクロウサギ非常事態宣言」が発令されました。



「わきゃあまみ」 アマミノクロウサギより

キャンペーン対象地はこのあたり。  
アマミノクロウサギは、かつて島のほぼ全域で見られましたが、分布域はだんだん狭くなっています。